

悠久

第55号 November 2019

本号の内容

① 日中教育交流を重ねて二十年	岡山県日中教育交流協議会	会長 岡本 啓
② 2019 STUDENT EXCHANGE IN 岡山 レポート	協議会事務局	
③ 現在の活動と今後の中国との交流について	特定非営利活動法人 国際協力研究所・岡山(NPO ICOI)	副代表理事 竹島 潤
④ 日中青少年交流の意義 岡山県日中教育交流協議会設立20周年記念講演会	NHK報道局国際部	記者 中村 源太



2019日中韓民族音楽演奏会－河南省洛陽市

岡山県日中教育交流協議会

会長 岡本 啓



日中教育交流を重ねて二十年

岡山県日中教育交流協議会は、設立二十周年を迎えました。皆様のご理解・ご支援に心から感謝を申し上げます。

岡山と中国・上海との関係について、最近、いくつかのお話を伺った。井原市出身の内山完造氏が開いた上海内山書店での戦前・戦中の日中の文化人等の交流。戦後、帰国した内山氏は、全国で八百回以上の講演活動を展開し、各地に日中友好の種をまいた。内山書店に関わった郭沫若氏は第六高等学校に学び、後に中国要人として岡山を訪れた際、後楽園に鶴を贈った。岡崎嘉平太氏の日中貿易への尽力、江草安彦氏（上海市榮譽市民）による医療・福祉交流など、岡山は中国・上海とは特別な関係がある。

このような関係を背景に、森崎岩之助先生や江草先生が中心になられて立ち上げられた本協議会が、上海人民対外友好協会等の理解と協力を得て、民間レベルの交流を重ねてきた。当初は教職員による教育事情視察、中国との学校間交流の橋渡しなどを行ってきたが、平成十七年福武教育文化振興財団の支援を得て、それまであったためきた高校生の相互交流事業がスタートした。応募者の増減もあったが、十四回の交流を通じて二百数十名の高校生を派遣（受入は約百五十人）し、相互の交流を重ねてきた。

日中の高校生が、歴史も踏まえ相手国の現実の姿を自分の目で見て、肌で感じ、同世代の若者と交流することは、きわめて有意義な経験になると考える。

二十年前から比較して現在の中国のGDPは、約十三倍、経済規模は日本の三倍に迫る。大きく変貌する中国を目の当たりにしてきた。中国の人々の日本人への印象は相当に改善していると言われているが、平成三十年の調査で「よい」が四割強。一方、日本人の約九割が「悪い」と答えている。

「好き・嫌い」にとどまらず、まずは、お互いを知り合うことが大切だと、中国を訪問した高校生は考えている。全国的にも稀な、継続すべき意義ある交流だと思ふ。

STUDENT EXCHANGE in 岡山

2019



ホストファミリー対面式

九月二十八日（土）、一行は上海から南方航空に乗り、十時五十五分に関西空港へ到着し陸路岡山入りした。出迎えと通訳添乗は、このSE事業に参加した経験のある(株)アジア・コミュニケーションズの小野沙也香さんが担当

（ホームステイ体験）

今夏、日中青年交流事業「STUDENT EXCHANGE (SE) IN 上海」事業で岡山県から十五名の選抜高校生と引率二名、添乗一名の計十八名が、上海市を訪問し静安区の上海第一中学との交流を実施したが、今秋は、上海市第一中学の生徒十五名と引率二名の計十七名が来日し、岡山と大阪で交流と見聞を深めた。この交流事業は相互訪問の形式で、夏に訪問、秋に中国の国慶節休暇に迎えるという形をとっており、これまで上海と四回、大連と六回、そして上海と四回と十四回実施されている。



上海、笛演奏

ピュアリティまきびに集合し、五時から岡山と上海の高校生による交流会と食事が始まった。

（交歓会開催）

九月二十九日（日）、四時半より生徒らは、翌日九月二十九日の午後四時に再びシテイホテル桑田町に集合し、その夜の交流会に臨んだ。

した。小野さんは訪日団が帰国するまで全線随行した。十六時には岡山シテイホテル別館会議室で、十五家族のホストファミリーと対面した。対面式では協議会の岡本啓会長が歓迎の挨拶と、受け入れ家族へのお礼とお願いを述べた後、訪日団を代表して呉盛傑団長が、今回の訪日受け入れとホストファミリーへのお礼とお願い挨拶をした。その後、上海生徒は受け入れ家族の方と一緒に、ホストファミリー先へ向かった。今回の受け入れ先は、岡山市内、倉敷市内を始め、井原、津山、浅口、総社、鏡野町、美作市湯郷と多方面に渡った。（大都会の上海に住む生徒たちの感想は、また改めてSE報告書に詳しく掲載予定）

訪日団一行は、九月三十日（月）朝から後楽園、岡山城を見学した後、今回の訪問交流校である岡山城東高校へ

（岡山城東高校への訪問と交流）

交歓会終了後、日中の生徒たちは記念撮影をしたり、メール交換などなかなか別れ難く、歓声を上げたり、ハグをしたりと、他のお客様の迷惑にならないかやきもきしながらも、ようやく解散し、岡山の生徒は家庭へ、上海生徒はホテルへ分かれて行った。

ホスト側である岡山の高校生は、倉敷青陵高校の板谷美佳さんと高木晴加さんが日本語と英語で司会進行を務め、合唱やクイズ、そしてビンゴゲームなどを出し、上海側は歌や舞踊など演出。約1時間の交歓会はあっという間に過ぎた。会場には、盛りだくさんの和洋食料理のほか、岡本会長準備による巻きずし体験にも参加し、盛り上がった。



食事を囲んで交流

向かった。

昼前に学校に着いた訪日団は、前川隆弘校長、平賀徹副校長らの出迎えを受け、応接室での歓迎セレモニーの後、校内食堂で昼食、城東の高校生も加わり、日本の高校生の昼食体験をした。午後一時から、五時限、六時限、七



交流会集合写真



城東高校訪問

《 日 程 》

No	月日(曜)	都市名	交通手段	時刻	行動予定	食事
1	2019年 9月28日 (土)	上海(浦東) 関西空港 岡 山	9C8589 専用バス	8:05 11:20 16:30 17:00 18:00	着後、専用バスにて岡山へ ホテル着後ホストファミリーとの対面式 ホームステイ先へ ホームステイ先で夕食 引率先生夕食 (岡山：ホームステイ泊)	✈ 昼 夕
2	9月29日 (日)	岡 山		14:00 16:00 16:30 17:00 19:00	ホームステイ家庭滞在 昼食後 ホームステイから集合(岡山シティホテル) 市内散策 集合(岡山シティホテル) 交歓会会場へ 歓送会と交流会 交歓会終了 (岡山：ホテル泊)	朝 夕
3	9月30日 (月)	岡 山	専用バス	午前 11:30 16:00	岡山後楽園、岡山城 市内見学 岡山県立岡山城東高等学校訪問 歓迎行事、授業体験、部活見学 学校出発 イオンモール (岡山：ホテル泊)	朝 昼 夕
4	10月1日 (火)	岡 山 新 大 阪 大 阪	新 幹 線 専用バス	8:00 9:00 13:30	新幹線にて大阪へ 着後、専用バスにて大阪市内見学 大阪府立高等学校訪問・交流 歓迎行事、授業体験、交歓会 夕食後、ショッピング ホテルへ (大阪：ホテル泊)	朝 昼 夕
5	10月2日 (水)	大 阪 関西空港 上海(浦東)	専用車 9C9000	15:00 17:00 19:10	USJ(ユニバーサルスタジオジャパン)見学 関西空港チェックイン 出国 到着	朝 昼 ✈

【宿泊ホテル】 岡山：岡山シティホテル桑田町 岡山市北区桑田町1-1 TEL 086-221-0001
大阪：新大阪江坂東急REIホテル 吹田市豊津町9-6 TEL 06-6338-0109

時限と、体育、生物、英語、古文授業に分散して参加した。体育では卓球とバレーボールに参加し汗を流した。その後、部活動にも参加した。部活動は、茶道、合唱、ダンスに分かれて見学した。合唱の部活動では、森野啓司教諭の指導の下、見事な演奏が披露され、中国語のできる生徒がNHK中国大会で金賞を受賞したことやこれから全国大会に臨むため課題曲に取り組んでいることなどを紹介した。参加した

上海の生徒は、高校生とは思えないくらいレベルの高さに驚いていた。

上海第一中の生徒は、十月一日、朝八時二十一分の新幹線で大阪へ向かった。大阪では、府立箕面高校を訪問し、交流した。高校には大阪府日中友好協会の藤井秀幸事務局長や戸毛敏美副会長らが駆け付け、歓迎と通訳などを応援していただいた。大阪の訪問に

「岡山を離れる」

あたっては、毎年、府日中の協力をいただいている。

今回は航空機便の関係もあり、大阪での観光時間がなかなか取れない状況だったが、夜のUSJ見学ができたんだ。

一行は、十月二日朝、関西空港へ向かい十一時五十五分の航空便で上海に向け帰国した。



現在の活動と今後の中国との交流について

特定非営利活動法人
国際協力研究所・岡山(NPO ICOI)

副代表理事 竹島 潤



Ⅰ. はじめに

当NPOは通称ICOI(いこい)と発音)です。これは、代表理事・池田時夫が約十五年の現地活動を有する中南米(コスタリカ、ホンジュラス、ボリビア、アルゼンチン、ベネズエラ、コロンビアなど)の使用言語である、スペイン語表記 Instituto Cooperativo Internacional de Okayamaからやっています。池田代表理事が国際協力活動の経験をもとに、平成二十二年(二〇一〇年)十一月、当NPOを設立し、来年度に設立十周年を迎えようとしています。

当NPOでは、「国際協力・国際交流」「考え・行動する人づくり」「持続可能な環境づくり」を三本柱に、多様なバックグラウンドや専門知識を有する会員と協力者が手を取り合い、小規模であっても、信念のある事業を展開しています。近年は、学校・教育現場をはじめ青少年育成分野と連携し、将来的に国際協力に寄与・参画できる人材育成を重視しています。

会員は教育、福祉、環境、飲食、情報、研究など多岐にわたる現職約二十五名から成り、会員の出身国(日本、ネパール、トルコ、ケニア、フィリピン、アメリカなど)と現地活動経験のある国を合わせると二十か国以上となり、マルチステークホ

ルダーとの連携に努めながら、SDGs4「質の高い教育」およびSDGs17「パートナーシップによる課題解決」の達成を重視しています。

Ⅱ. 現在の活動について

(1) 海外青少年受け入れ・交流活動

① コスタリカ・サンホセ市・同市は岡山市姉妹都市であり、池田代表理事の心ふるさと(奥様もコスタリカご出身)です。二〇一四年、北区御津地区(宇甘西地区)にシルビア・サンチェス氏を招へいし、河原邸をはじめ同地区で地元の方々と生活しながら、コミュニティ会議などで地域課題の共有と地域活性化について提案しました。以降、来日されたコスタリカ関係者の歓迎会や岡山でのNPO体験活動を支援しています。

② 米国・サンノゼ市・竹島副代表理事が学生時代に留学していたこともあり、これまで岡山市とサンノゼ市の間で行われていた姉妹都市間交流を、二〇一七年度から民間草の根交流として引き継いでいます。現地NGO Silicon Valley Youth Ambassadors (Bob & Kazuko Green氏)と連携し、サンノゼ市およびシリコンバレー周辺地域からの高校生親善大使約十名に、岡山市表敬訪問、岡山大・岡山学芸館高・岡山市内中学校での生徒および学生交

流、曹源寺や後樂園などの名所訪問、岡山市内ホームステイをはじめとした「岡山プログラム」を実施したり、日本滞在中の支援をしたりしています。

(2) NPO・学校による連携・協働学習プログラム

Global Youth Project (国際青少年)・Peace Project (平和)・Social Issue Project (社会課題) など、「多文化共生」「東日本大震災後の福島」「戦争と平和」「南北問題」「気候変動」などをテーマに、学校現場と連携協働した学習プログラムを岡山市内五中学校で実践しました。社会課題やグローバル課題を扱う学習プログラムは、青少年の学習意欲を高め、教科学習での学びを深めるとともに、多様な人々と繋がりがなが



サンノゼ受け入れ市長表敬



サンノゼ受け入れホストファミリーマッチング

ら、よりよい地域やグローバル社会を創ろうとする上での資質・能力を育むことができます。各学校の既存の取り組みを生かすとともに、ESD（持続可能な発展のための教育）を重視した学習指導の視点を生かしながらい、学習活動やその成果共有を地域や公民館などでも行うことで、広く市民の皆さんに広報啓発する役割も果たしています。

(3) 被災地現地ボランティア活動

① 東日本大震災・地震、津波、原発事故の三重苦により、特に福島県沿岸部は甚大な被害を受けました。福島県双葉郡浪江町「希望の牧場・ふくしま」（吉沢正巳代表）への現地ボランティア活動（被ばく牛の世話や牧場および周辺地域の清掃・美化活動など）とフィールドワーク学

習を十回以上行い、岡山での講演会や報告会などを行っています。学校の防災学習やキャリア学習とも関連付け、これまでに約三千名の岡山の青少年たちに考える機会をつくっています。

② 西日本豪雨災害・発災後から比較的早いタイミングで倉敷市真備町、岡山市御津地区などに入り、土砂のかさだしや浸水被害をうけた家屋の清掃などの肉体労働に従事するとともに、現地活動報告会や展示をおこないました。岡山市の非営利セクターが連携して取り組んだ「ぞうさんプロジェクト」では、学校・NPO連携事業を担当し、岡山市内六中学校と山梨県の一中学校の生徒さんたちと協力して、現地に約二千五百枚のぞうさんをお届けする寄付活動を展開しました。



ふくしま支援



真備豪雨ボラ

三、今後の中国との交流について

これまでの国際交流活動や、学校教育・青少年育成分野とのネットワークなどを生かし、昨今の中国や韓国との国家間や政治での摩擦や不安定な関係を乗り越えた、「青少年交流をはじめとした、人と人とのコミュニケーションや繋がりによる、平和の礎づくり」を推進したいと考えています。

年末十二月二十七日～三十一日の五日間、小生含め会員五名で訪中交流事業（上海市および洛陽市訪問）を実施し、中国の現状を学ぶとともに、岡山市と洛陽市における青少年交流活動に関わる関係機関の方々と相互理解やネットワーキング構築に努めたいと思います。現地では、洛陽市外事弁公室表敬訪問や学校交流活

動、文化体験などを計画しています。また、帰国後は事業報告会や岡山市内中学校での学校間交流プログラムを提案、実施する予定です。

四、おわりに

このたびのご縁により、日中間の教育や青少年交流に長くご尽力されている団体や個人の方々について、知り学ぶ機会となっております。当NPOのもつ強みそして情熱と行動力が、地元岡山における日中友好、青少年交流の推進に寄与できるよう、微力ながら精進させていただきます。浅学非才ではございますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。押忍



8周年大会

日中青少年交流の意義

岡山県日中教育交流協議会設立二十周年記念講演会

中村 源太氏(NHK報道局国際部記者)の講演から(要旨)

私は、第一回「Student Exchange in 上海」(以下「S/E」という)に参加した。黒瀬定生団長の下、上海を訪問して現地の高校生と交流を深めた。私にとって初めての中国訪問。今思い出しても特別だったなと感じる理由の一つは、その時期。日本と中国がどんな関係だったか。平成十三年、小泉純一郎氏が総理大臣に就任し、その後、靖国神社に参拝したことで、日中関係が悪くなった。中国側から、日中首脳会談が一方的に拒否され、中国国内では反日感情が高まった。靖国参拝中止を求める中国側の再三の要請があり、「過去を反省しない日本」という見方が中国国内に広がった。その後、平成十七年三月の下旬から、歴史教科書問題、国連の安保理常任理事国入り反対署名運動が始まりました。インターネットや携帯メールなどで中国全土に日本批判の声が広がった。四月二日には、四川省成都の日系スーパーに対する暴動が起きた。お洒落で最先端として地元では大人気の大店が標的になった。その後この動きが、北京、上海にも広がった。四月二十二日に、小泉首相が、異例の謝罪をすることで、二十三日以降は中国政府の厳しい抑え込みもあって、収束に向かった。私たちが上海へ行ったのは、平成十七

年七月三十一日。半年も経たない前にそんなことがあった。黒瀬団長・松井さんが事前に現地を訪ね、安全を確認してくださった。「まったく大丈夫だよ」と言ってくくださったことが記憶に残っている。私たちが現地に入り、上海の生徒と一緒にご飯を食べたり、豫園という中国の公園、夜は遊覧船、そして、学校では英語でデイスカッションをしたりした。そしてこのプログラムは相互交流。次は、中国の生徒が日本に来る。瀬戸大橋に行ったり、岡山城東高校を訪問し、日本のお菓子(白玉)づくりや書道を体験したり、岡山操山高校にも来てくれてデイスカッションをしたりした。最後の夜は、一番街で食事をした。この後、皆と別れることになるが、私は家に帰り、中国の生徒は宿に帰るので反対方向になって、彼らの背中が見えなく瞬間、あー終わった、とすごく寂しく思った。それほど自分にとってS/Eは特別な体験だった。

私が記者になるに当たって、S/Eの経験でどういう影響を受けたか、そこで作ってもらった基礎が今も生きていて。それについてお話ししたい。

私は初めて中国を訪れた。それまでインターネットや本でしか知らなかった中国を見ることが出来たとい

うことが大きな経験だった。当時、日本で反日デモのニュースを連日見ているので、自分の肌感覚でどういう状況かを知ることができた。日本のメディアは同じシーンばかりを流していた。自分の記憶に残っているシーンも一つで、日本車に乗った中国人の女性が囲まれて、玉子を投げられて、「私は中国人だ」と叫んでいたのが忘れられない。

今、報道に携わる人間として、「伝える」ということが、どういうことなのかを、この時学んだような気がする。メディアを通して見た中国と自分の肌感覚とを比べることができ、今も大切な下地になっている。

旅行で行くとせいぜいお店の人と話を程度だが、交流イベントなので、中国の生徒とのやり取りが出来るということが自分にとって新鮮な体験だった。

相手の意見を聞くと、今度は自分の意見を言わなければならない。すると今度は自分がどういう意見を持つのかを考えなければならない。

向こうは中国人としての意見を言ってくる。そこで、自分は、日本人として話している、ということに気付く。そうすると、自分が何を知らないかということに気付かされる。例えば、戦争中の日本の軍人の名前を中国の人の方がよく知ってい

るとか。自分が何を知らないかというのを中国の人と話す中で気付かされる。

そして見てきたことを、日本に帰って伝えてあげたいと思う。今度、日本で、日本人に中国を伝える窓口になる、なれるというふうに思ったのが、このS/Eだった。

これは形が違えど、やっていることは記者と同じであり、これが記者を目指す一つのきっかけになったのだと思う。当時参加した人たちも、記者とまではいなくても、「中国ではこうだったよ」と伝える「いい草の根大使」になっているのではな

日韓・日中関係の「感情論」

日本と韓国には悲しい歴史があった、日本が韓国に対してきたこと（中国に対してもそうだが）それは絶対忘れてはいけないと思う。しかし、歴史以外の問題にまで歴史問題を持ち出してしまおうと解決するものも解決できなくなる。

それはなぜかという、歴史問題では往々にして感情論が先行してしまうからだ。今回（輸出入管理の問題）、日本政府は相当強気だ。なぜなら、今回はハッキリとこれは歴史問題ではないと言える理屈が通るか

らだ。加害者と被害者という構図が生まれたこと自体が悲劇なのだが、今回感情論が先行したことで、インターネット上などでは根も葉もない誹謗中傷も散見され、こうした状況を残念に思う。

大好きだけど大嫌い

私は、中国語を勉強し始めた頃は、中国のことがとにかく大好きだった。その後、留学や取材で、中国語圏、特に中国大陸の人たちと付き合う中で、理不尽な扱いだったり、

不合理なあり方だったり、どうにもならない旧弊や荒廃した人の心に触れるにつれて、中国への「熱」がどんどん冷めていくときもあった。例えば留学時代、何度もだまされた。全国人民代表大会を取材したときは、中国政府が少数民族のウイグル族に対して抑圧的な政策をとっている」と指摘される中、最高検察院（日本の最高検察庁にあたる）による活動報告の中で、ウイグル政策についての報告を聞いていると、違和感を覚えずにはいられなかった。

そうすると中国のことをどんどん嫌な気分になってしまふのだが、そういう中で、滞在したからこそ知る中国が生まれてくる。表面的にしか知らなかった中国の文化に触れ、漢

字を共有している中国語と日本語のつながりや奥深さを知る。実際に知り合った尊敬すべき人の数が増え、S/Eで知り合った人の顔が思い浮かび、個人のあり方と国や政治や歴史の在り方を粗雑に結び付けまいという気持ちが生まれる。私の頭の中で、中国のことを大好きだけど大嫌い、そういう感情が生まれる。

すごくアンビバレントな感情だが、中国と韓国とはこれでいいし、正常なのだと思う。

日中・日韓青少年交流の意義

日中或いは日韓の関係が悪化する

毎に交流事業が取り消される。その多くが青少年交流だ。今回、韓国とのいろいろな交流がキャンセルされている。平成二十四年には、尖閣諸島の問題で凄く揺れて、およそ六百年の交流事業が用意されていたが、

（その年が日中国交正常化されて四十周年の年だった）最終的には百四十件ほどになった。3/4程が中止になってしまった。先ほど、相手に

は相手の論理があり、相手のことを知ることが大切だとお話したが、今回こうした民間交流を中止することは、その青少年たちが相手のことを知る機会を奪うことに他ならないと思う。むしろこういうときだからこ

そ交流して、中国・韓国を見てもらつてきて、日本の人たちに「どうだったよ」と伝えてほしいし、中国・韓国の方々に日本人としての思いを伝えてほしいと思う。

もちろん交流が中止になるのには理由がある。あのような反日運動があるとこへ子どもを連れて行くのは危ないのではないか。そういう安全面で中止になることはあるかもしれない。

こういう運動は大人によって引き起こされ、また往々にして感情的になりがちだ。私たち大人は、それが青少年たちの大切な交流の機会を奪っている罪深さを忘れてはなるまい。

こういう民間レベルの交流が、関係発展の礎になると思う。こういうときに、この青少年交流事業を通じて、国民や地域が、政治や官を動かす時代であるということを、ぜひ、示していつてほしいと強く思う。

私自身、平成十七年の交流に参加した者であるからこそ、これが青少年交流の意義ではないかとこの場で強く申し上げたい。

「日本を取り巻く国際情勢と日中青少年交流の意義」についてお話しさせていただきました。ご清聴ありがとうございました。





岡山商科大学孔子学院

中国語講座

8レベル展開 計18回
※途中からの受講可能

子供向けコース

親子での受講も大歓迎
毎週土曜日 計15回

出張中国語講座

簡単な日常会話から本格ビジネス中国語まで
対応します。内容は相談に応じて調整いたします。

出張中国文化講座 (開講料無料)

岡山県内の小学校、中学校、高校及び公民館を
対象とした出前中国文化講座を開講いたします。

お問い合わせ／お申し込み 岡山商科大学孔子学院 〒700-8601 岡山市北区津島京町2丁目10-1
TEL 086-256-6670 (直通) FAX 086-255-6947 <http://www.osu.ac.jp/koushi/>



学校法人 中国学園

中国学園大学

- 現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●国際教養学部国際教養学科
- 大学院(現代生活学研究科 子ども学研究科)

中国短期大学

- 総合生活学科 ●保育学科 ●情報ビジネス学科 ●専攻科(介護福祉専攻)

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<https://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属高等学校

岡山県初 国際バカロレアワールドスクールに認定!

【普通科】

- ・グローバルサイエンスコース
- ・総合進学コース
- ・国際バカロレアコース
- ・スポーツサイエンスコース

〒700-0005 岡山市北区理大町 1-1
TEL 086-256-8527 FAX 086-256-8526
URL <http://okayama.ridaifu.net/>
フリーダイヤル ☎ 0120-209817



赤ちゃんからお年寄りまで、
ひとりひとりの「よく生きる」のために。

ベネッセグループは、教育 / 語学 / 生活 / シニア・介護の分野でお客さま一人ひとりの「Benesse」を
支援する事業を展開しています。 Benesseは、フレン語の bene(よく) と esse(生きる) を一語にした造語です。



株式会社 ベネッセホールディングス 岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17 <http://www.benesse-hd.co.jp/>

岡山県日中教育交流協議会 会報『悠久』第55号

発行：令和元年11月／発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会
〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086) 225-5083 / FAX (086) 225-5041